

<文法研究の歴史>

●鎌倉時代末期か室町時代初期

『手爾葉大概抄』：実質語と機能語（てにをは）の識別に言及

●江戸時代

本居宣長『てにをは紐鏡』（1771）

富士谷 成章（なりあきら）『かざし抄』（1776）『あゆひ抄』（1778）

⇒単語を「名・装・挿頭・脚結」に分類

※名⇒体言 装⇒用言

挿頭⇒代名詞、副詞、接続詞、感動詞、接頭辞

脚結⇒助詞、助動詞、接尾辞

●明治以降

大槻 文彦『広日本文典』（1897）

山田 孝雄（よしお）『日本文法論』（1908）

『日本文法学概論』（1936）

松下 大三郎（だいさぶろう）『改撰標準日本文法』（1928）

橋本 進吉『国語法要説』（1934）

時枝 誠記（もとき）『国語学原論』（1941）「言語過程説」

三上 章（あきら）『象は鼻が長い』（1960）「主語廃止論」

渡辺 実『国語構文論』（1971）

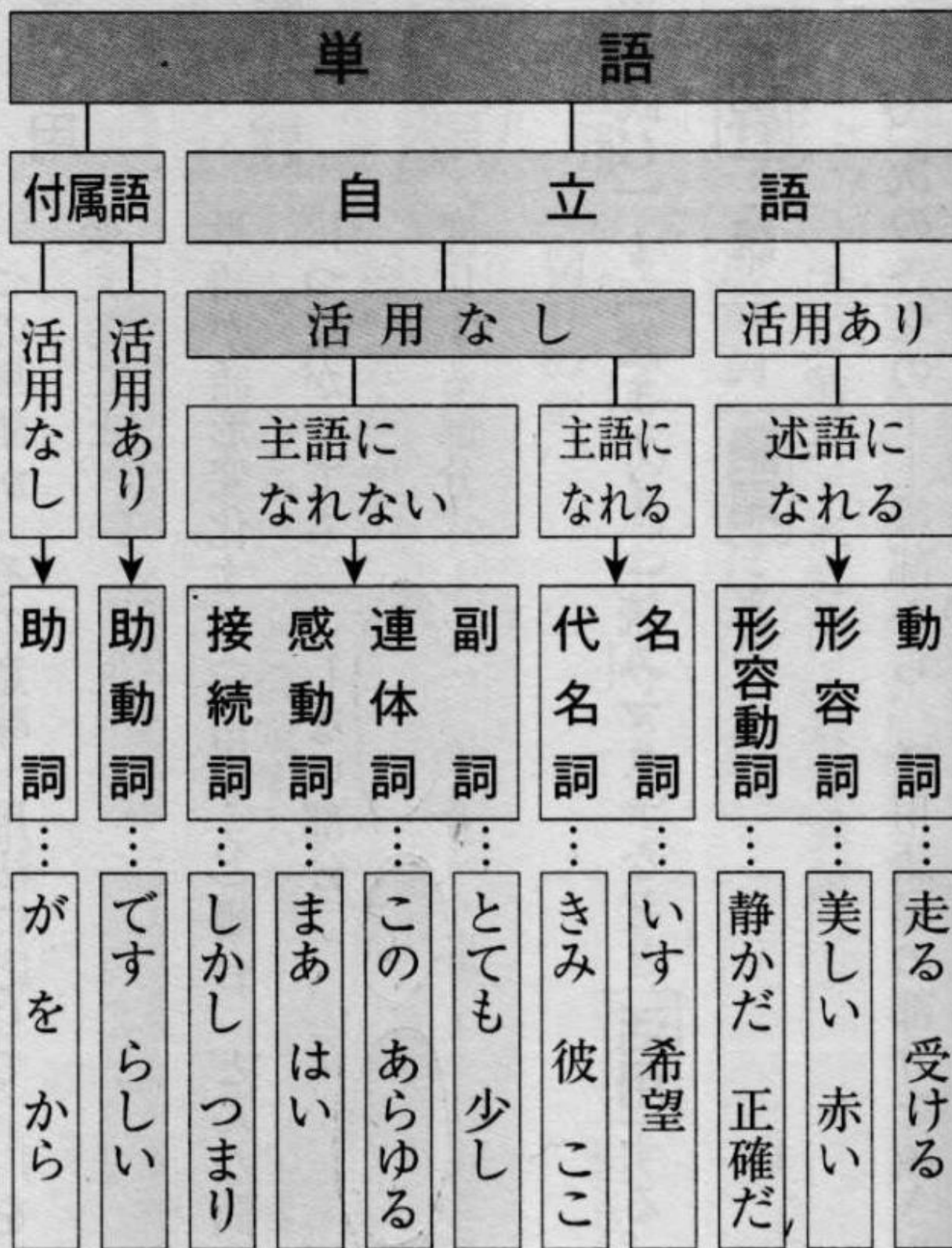
寺村 秀夫『日本語のシンタクスと意味Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ』（1982・1984・1991）

<国語文法と日本語文法の違い（文法用語）>

国語文法	日本語文法
五段動詞	1 グループ、u-verb、 子音幹動詞、強変化動詞 例) 書く kak-u、話す hanas-u
上一段動詞	スペシャル 2 グループ、ru-verb、 母音幹動詞、弱変化動詞 例) 見る mi-ru、起きる oki-ru、 借りる kari-ru
下一段動詞	2 グループ、ru-verb、 母音幹動詞、弱変化動詞 例) 食べる tabe-ru、教える oshie-ru
サ変動詞、カ変動詞	3 グループ、irregular verb、 不規則動詞 例) する、勉強する、来る
形容詞	イ形容詞 例) 高い、大きい
形容動詞	ナ形容詞 例) きれい(な)、しずか(な)

<国語文法と日本語文法の違い（動詞活用形）>

国語文法	日本語文法
未然形	ナイ形 例) 行かない
	意向形 例) 行こう
連用形	マス形 例) 行きます
	テ形 例) 行って
	タ形 例) 行った
終止形	辞書形（原形） 例) 行く、行く人
連体形	
仮定形	仮定形、バ形 例) 行けば
命令形	命令形 例) 行け
	可能形 例) 行ける
	受身形 例) 盗られる
	使役形 例) 行かせる



助詞の分類

<学校文法>

<橋本文法>

格助詞

格助詞

準体助詞（名詞の代わりに「の」）

準副体助詞（名詞＋「の」＋名詞）

副助詞

並立助詞（格助詞と・や・に等 副助詞も・か等）

副助詞

係助詞（文末の述語に係る）

例）ぞ～ける。／こそ～なれ。

接続助詞

接続助詞

終助詞

終助詞

間投助詞

<格の種類>

by「日本語教育能力試験に合格するための文法」

主格……主語として使われる名詞・代名詞の格

対格……直接目的語として使われる名詞・代名詞の格

与格……間接目的語として使われる名詞・代名詞の格

属格……所有格と同じで、所有・所属関係を表す名詞・代名詞の格

奪格……空間的な分離、場所、道具などを表す名詞・代名詞の格

呼格……呼びかけに使われる名詞・代名詞の格

<格助詞> by「国語教師が知っておきたい日本語文法」より抜粋

助詞	意味	例文
が	①主語を表す ②対象語を表す	花が咲く、 これがほしい
の	①連体修飾語 ②主語 ③並立 ④体言化	来年の春 僕の持っている本 行くの行かないのと悩んでいる 読むのが遅い
を	①動作・作用の対象 ②動作の場所(通過点) ③動作・作用の起点(出発点)	本を読む ろうかを走る / を通る / 散歩する / 登る 学校を出る
に	①場所・時・帰着点 ②変化の結果 ③動作の目的 ④受身・使役の動作主 ⑤強意 ⑥並立	机に置く、7時に起きる、駅に着く 信号が赤になる 買い物に行く 親に叱られる、子どもに勉強させる 走りに走る 国語に数学に英語の試験がある
へ	①動作の方向 ②動作の帰着点	家へ急ぐ 学校へ着く
と	①共同の相手 ②動作や作用の結果 ③引用 ④並立	母と買い物にでかける 努力が泡と消える 来ると言った、行くと思う 本とノートをもらう
から	①動作・作用の基点 ②動作・作用の原因・理由 ③材料	兄から本をもらう、見てから寝る 火の不始末から火事になる ワインはぶどうから作る
より	①比較の基準 ②限定(比較を伴う)	田中さんより背が高い 練習するよりほかはない
で	①場所(動作が行われる場所) ②手段・材料 ③原因・理由 ④時限	運動場で遊ぶ 電車で行く、紙で人形を作る かぜで学校を休む 60才で退職する
や	並立	電車やバスが多く通る

<複合格助詞> by「国語教師が知っておきたい日本語文法」より抜粋

複合格助詞の一覧表

格助詞と似た働きをする複合形式である複合格助詞の中で主だったものを挙げておきます。

おおよその意味で分けてありますが、ほかの意味をもつ形式もあります。格助詞は通常、体言につきますが、ほかに一部用言につくものもあります。用言につくものは「用」（「の」を介さず用言につくものは「(用)」）と記してあります。

形 式	接 続	意 味	例 文
にとって	体	感情・感覚の主体	僕にとって君は太陽だ
とともに	体	相手	田中とともにテニスをした
について	体	対象	環境問題について講演した
に関して	体	対象	環境汚染に関して詳細に報告する
に対して	体	対象	農林水産省の対応に対して批判が相次ぐ
をめぐって	体	対象	人事をめぐって紛糾した
にむけて	体	目的	選手たちは大会にむけて練習している
をめがけて	体	目的	的をめがけて矢を放った
からして	体	起因(判断の根拠)	外見からしてまずそうな料理だ
だけあって	体/用	原因・理由	大学の先生だけあって博学だ
だけに	体/用	原因・理由	名家だけにしきたりが厳しい
とあって	体/用	原因・理由	横綱とあって強力だ
にかこつけて	体	原因・理由	台風にかこつけて授業をさぼった
にして	体	原因・理由	あの親にしてこの子あり
につき	体	原因・理由	14日は棚卸しにつき休業
によって	体	原因・理由	その患者は肺結核によって亡くなった
のおかげで	体/(用)	原因・理由	先生のおかげで試験に合格した
のせいで	体/(用)	原因・理由	寝坊のせいで試験に遅れた
のために	体/(用)	原因・理由	風邪のために学校を休んだ
でもって	体	手段	ホチキスでもって原稿をとめる
によって	体	手段	その岩は大きな重機によって動かされた
をもって	体	手段	拍手をもって迎える
によって	体	受身文の動き主体	問題は試験官によって配られた
を通じて	体	経過域	事務所を通じて抗議文を送る
において	体	場所	卒業式は体育館において行われます
でもって	体	範囲	7時でもって店を閉める
にかけて	体	範囲	数学にかけて彼の右に出るものはない

にかけて	体	範囲	関西から北陸にかけて大雨が降る
にわたって	体	範囲	大会は3日間にわたって開かれた
をはじめ	体	範囲	町内会の人をはじめ大勢が集まった
をもって	体	範囲	これをもって私の話を終わります
に先立って	体 / 用	時間(前)	出発に先立って資金を用意した
に臨んで	体 / 用	時間(前)	卒業に臨んで最後の作品を仕上げる
をひかえて	体	時間(前)	大学受験をひかえて緊張していた
を前に	体	時間(前)	結婚を前にゆううつな気分になる
を目前に	体	時間(前)	卒業を目前に帰国することになった
にして	体	時間(同時)	四十にして初めてのスキー
と同時に	体 / 用	時間(同時)	ゴールと同時に倒れ込んだ
の際(に)	体 / (用)	時間(同時)	離陸の際、少し揺れた
の折(に)	体 / (用)	時間(同時)	帰国の折、世話になった人にお礼をした
につけて	用	時間(同時)	それを見るにつけて思い出される
にあたって	体 / 用	時間(同時・直前)	二人の門出にあたって祝辞を述べる
にいたって	体 / 用	時間(同時・直前)	式にいたって花婿がいなくなった
におよんで	体	時間(同時・直前)	この期におよんで何を言うか
に際して	体 / 用	時間(同時・直前)	出発に際して一言申し上げます
とともに	体 / 用	時間(同時・推移)	ゴールとともに倒れ込んだ
にしたがって	体 / 用	時間(同時・推移)	輸入の増加にしたがって黒字が増えた
につれて	体 / 用	時間(同時・推移)	輸出の増加につれて黒字が増える
にともなって	体 / 用	時間(同時・推移)	消費の増大にともなうごみも増えた
について	体	割合・対応	1枚について5人まで入場可
によらず	体	割合・対応	だれかれによらず結婚を申し込む
に応じて	体 / 用	割合・対応	金額に応じて返金する
に対して	体	割合・対応	一人に対して一万円が支払われる
によって	体	対応	季節によってカーテンの柄を換える
にもまして	体	基準	今日の彼女はいつにもましてきれいだ
をおいて	体	除外	委員長には彼をおいて他にない
にかわって	体	代替	病気の父にかわって挨拶をした
として	体	役割・資格	教師としてはまだ半人前だ

- ・ 接続助詞や副助詞に相当する複合形式は基本的に含めてありませんが、原因・理由を表す「だけあって」や「だけに」「とあって」は接続助詞とも考えられます。
- ・ 「～にとって」に対する「～にとり」のように、連用形による形をもつものもあります。

<副助詞> by「国語教師が知っておきたい日本語文法」より抜粋

名詞やその他の語について、さまざまな意味を添える助詞を副助詞といいます。学校文法の副助詞は次の16形式です。

助詞	意味	例文
は	①主題 ②対比	今年の夏は暑い 私は行きません
も	①並立 ②意外さ / 強調 ③数量の見積もり ④婉曲	それは辞書です。これも辞書です。 本も辞書もほしい 30人も来た / さすがの彼も怒った 100メートルも歩けば駅に着く 夜も更けてきました
こそ	強調(際立たせ)	来年こそ勝つぞ
さえ	①極端な例のとりたて / 累加 ②限定 / 条件	頭のいい田中さんさえわからない この問題に答えさえすればいい
でも	①極端な例のとりたて ②例示	犬でも食べないほどまずいごはん お茶でも飲みましょう
しか	限定(下に否定語が来る)	あと十分しか時間が(ない) 予定と呼称
まで	①意外な要素の付け加え / ②限定 極端な例	犬にまでばかりにされた 許してもらえないなら勝手にするまでさ
ばかり	①限定 / 重なり作の直後 ②おおよその数量	テレビばかり見ている、来たばかり 図書館に3人ばかり人がいた
だけ	①限定 ②おおよその程度	五百円だけ持って買い物に行く これだけ言えばわかるだろう
ほど	おおよその程度	百円ほどある、これほど言っても聞かない
くらい	①おおよその程度 ②最も高い可能性の提示	同じ本を3回くらいは読みなさい 返事くらいしなさい
など	①例示 ②当然	イタリアでピザなどを食べました 目玉焼きなど僕にも作れる
きり	限定	一度きりの学生生活
なり	①例示 ②どれと決まらない並列	せめてひとこと断るなりするべきだ 行くなり行かないなり早く決めろ
やら	①不確か ②並立	彼はいったい何が言いたかったのやら 悔しいやら情けないやらでだまっていた
か	①不確か ②並立	どこかへ行きたいなあ 行くか行かないか決められない

<接続助詞> by「国語教師が知っておきたい日本語文法」より抜粋

述部が続いて、それを含む節と後の節とを結びつける助詞を接続助詞と言います。

学校文法で教える接続助詞は次の 15 形式です。

助詞	意味	例文
ながら	①同時 ②確定の逆接	お茶を飲みながら新聞を読む その場にいながら手伝わなかった
ば	①仮定の順接 ②確定の順接 ③並立	呼べば答える 散歩に行けば必ず本を買ってきた 学生もいれば社会人もいる
と	①仮定の順接 ②確定の順接 ③仮定の逆接	彼に頼むと手伝ってくれるよ 橋を渡ると大きな家が見えた 春になると花が咲く 何を言われようとくじけない
ても	①仮定の逆接 ②確定の逆接	今、電話を掛けてもいないだろう 電話を掛けてもだれも出なかった
が / けれど / けれども	①確定の逆接 ②単純な接続(前置き) ③並立・対比	雨が降ったが/けれどぬれなかった すまないが/けれどこれを貸してくれ 夏は暑いが/けれど冬は寒い
のに	確定の逆接	お金を入れたのに切符が出てこない
ものの	確定の逆接	本を買ったものの一回も読まない
ところで	仮定の逆接	本を買ったところで読まないだろう
ので	確定の順接(原因・理由)	おなかがすいたのでごはんを作ろう
から	確定の順接(原因・理由)	おなかがすいたからごはんを作ろう
し	並立	彼はピアノも弾けるし作曲もできる
たり	並立	本を読んだり音楽を聴いたりする
て	①確定の順接(原因・理由) ②単純な接続(先行) ③並立 ④補助用言に続く	かぜを引いて学校を休んだ 朝、ごはんを食べて歯をみがく この家は広くてあの家はせまい 食べている、読んでもらう

<終助詞> by「まとめ上手国語文法」より抜粋

主な終助詞 ① ★						種類
な	なあ	よ	ね	の	か	意味
禁止	感動	感動 確かめ	感動 確かめ	疑問	疑問 反語	
花壇には絶対に入るな。	阿蘇山は大きいなあ。	富士山は特に美しいよ。	集合時間は九時だよ。	あら、すてきな靴ね。	ほんとうにできるんだね。	今まで何をしていたの。
					明日は晴れるだろうか。	そんなことが許されるものか。
						用例

主な終助詞 ② ★						種類
こと	さ	わ	や	とも	ぞ	意味
軽い感動	強調 軽い言い離し	感動	呼びかけ 促し	強調	念押し	
きれいな桜だこと。	勝つのが当然さ。	まあ、きれいだわ。	花子や、こちらに來なさい。	うん、いいとも。	よし、がんばるぞ。	
	どうでもいいさ。		こっちに來いや。			用例